

1970年代フランスにおけるスーザン・バージ とカロリン・カールソンの舞踊活動 —ダンス・コンタンポレンヌの発展要因を探る—

お茶の水女子大学大学院 壽田裕子

1. 研究目的及び方法

1980年代フランスではダンス・コンタンポレンヌが目覚ましい発展を遂げた。この動向についてフランスの舞踊関係者はアメリカ人舞踊家の影響を挙げ、中でもアルヴィン・コライに師事し、1970年代初めにパリに定住したスーザン・バージ Susan Buirge (1940-) とカロリン・カールソン Carolyn Carlson (1943-) の教育的役割を指摘する。¹⁾ そこで本研究は、1970年代フランスにおけるスーザン・バージとカロリン・カールソンの舞踊活動を捉え、2人がダンス・コンタンポレンヌの発展にどの様に寄与したかを探ることを目的とする。方法は、舞踊雑誌 *Les Saisons de la Danse* (1968-80) 129冊を基に2人の舞踊活動を創作活動と教育活動に分類し、考案を行った。

2. 考察結果

(1) スーザン・バージの舞踊活動

①創作活動

バージは70年にパリでスタジオ「ダンス・テアトル・エクスペリアンス」を開設、75年には振付研究グループ「ダンス・テアトル・スーザン・バージ」を創設した。初期の作品は「アンチ・バレエ嗜好」を見せ、ダンス・ムーヴメントの減少、クラシック音楽と現代音楽によるコラージュを行った。『西から東への往路』(76)より簡素なジェスチャーを反復させてムーヴメントを展開、その後美術家や音楽家とのコラボレーションを始めた。バージ作品は70年代末フランスにおいてポストモダン芸術における「見本」として位置づけられ、振付家として確かな評価を受けるようになった。

②教育活動

バージは「ダンス・テアトル・エクスペリアンス」や「ダンス・テアトル・スーザン・バージ」を通して、多くのダンサーをプロの振付家へと導いた。国の認定により、若手振付家の登竜門として評判となったバニョレ振付コンクールでは、アレクサンドル・ヴィツマン＝アナヤ (78) やクリスティーン・ジェラルド (79) が入賞を果たした。ジョアンヌ・リヴォワールは、86年地方都市に建設された文化会館の1つであるナンテル市文化の家舞踊監督に就任した。またバージは76年よりバニョレ振付コンクールの審査員に招かれ、公の場でも若手振付家に助言を与えるようになり、教育者として注目される存在となった。

(2) カロリン・カールソンの舞踊活動

①創作活動

カールソンは71～73年アンヌ・ベランジェカンパニーで活躍後、パリ・オペラ座のダンス・モデルヌの教師に就任した。75年パリ・オペラ座舞台研究グループの創設に伴い「エトワール振付家」に就任、グループのリーダーとして80年まで活動を行う。舞台研究グループでは、カールソンは創作法にコラボレーション方式を用い、照明家、音楽家、美術家などコラボレーターを発掘した。『風水、砂』(76)は充実したコラボレーションを見せ、カールソンは振付家のみならず演出家としても才能を発揮した。作品を通して、カールソンは内的な世界を表現し、振付では同じようなパヤ振付の構図を執拗に反復させて、ムーヴメントの分析を行った。

②教育活動

カールソンはパリ・オペラ座のダンス・モデルヌ教師として、オペラ座内外のダンサーを幅広く受け入れて指導した。クラスは「前衛グループの溜まり場」となり、後にプロとして活躍する振付家を多く輩出した。バニョレ振付コンクールではドミニク・バグエ (76) とドミニク・ボワヴァン (78) が入賞し、バグエは80年モンペリエ市振付センター芸術監督に就任した。舞台研究グループでは、エトワール振付家として、ダンサーに創作の精神と方法を教えた。カールソンはそれまで彼女の創作に参加するだけであったダンサーに振付を实践させ、発表の場を与えた。解散後、ダンサーの殆どがプロの振付家として活躍、カンタン・ルイイエは84年カン市、アンヌ＝マリ・レイノーは84年ヌヴェール市国立振付センターの芸術監督に就任した。カロリン・マルカデは84年にル・アーヴル市文化の家舞踊監督に就任した。

3. まとめ

バージとカールソンは、創作活動では自己のダンス表現を模索する中で、振付の研究と創作法の開拓を行った。教育活動では多くのフランス人ダンサーに創作の精神と方法を教え、プロの振付家へと導いた。その結果2人の教育を受けた者から、70年代半ばより、若手振付家の登竜門であるバニョレ振付コンクールの入賞者が現れる。80年代には文化の家舞踊監督や国立振付センター芸術監督に就任する者も現れ、彼らは創作活動を通して、国が推進したダンス・コンタンポレンヌの普及に努めることになった。以上のことから、ダンス・クラシックを土壌としてきたフランスにおいて、ニコライに師事したバージとカールソンが各々の創作精神を啓蒙し、広めたことがダンス・コンタンポレンヌの発展要因の一端になったといえる。

1) Jacqueline Pobinson, *Une certaine idée de la danse réflexion au fil des jours*, Chiron, 1977, p. 37./Marcelle Michel et Isabelle Ginot, <<La Nouvelle Danse en France et dans le monde>>, *La Danse au XXe siècles*, Borda, Paris, 1995, p. 17